

Jingle Bell Rock Santa の修理法（左腕の外れ）

2018.12.22/2022.06.24 改訂

トミー・マック

1. 外 観

おもちゃ名は「Jingle Bell Rock Santa」で、CHRISTMAS FANTASY LTD.です。著作権の表示が1998年ですので、それ以降の販売と推測されます。



2. 特 徴

「Jingle Bell Rock」を歌いながら腰を振って踊るサンタさんです。

その様子はYouTube©の

https://www.youtube.com/watch?v=KewfG_5tG_oで見られます。



クリスマス関連のおもちゃが12月に集中し、簡単な故障はすぐに修理して返せますが、重傷の場合は来年までお預けになります。

3. 故 障

左腕がぶらぶらし、取れています。

4. 原 因

分解と修理過程で分かったことは、

- ・左腕が根元からちぎれていました。

最後のP3～4の「6. 備考」に、（1）脚駆動ギアなどの点検、（2）プリント基板の点検について書いています。

5. 修 理

（1）上着の脱がし（写真なし）

ズボンのサスペンダーを降ろし、上着のボタン部を外すと、左腕が左袖に入ったまま上着が脱げました。右袖を右腕から脱がします。

左腕の根元部は胴体に残っています。

（2）ズボンの降ろし

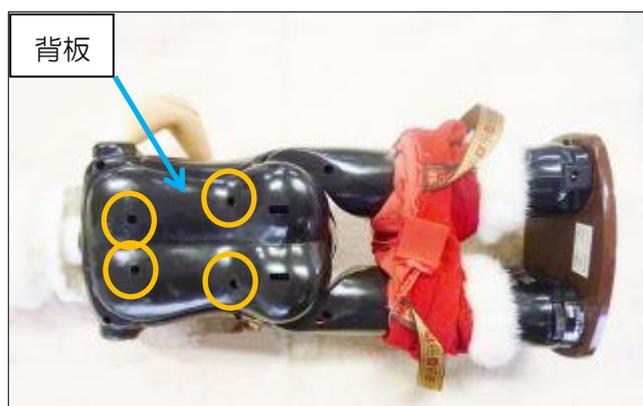
ズボンを足元まで降ろします、



Jingle Bell Rock Santa の修理法（左腕の外れ）

（3）背板の外し

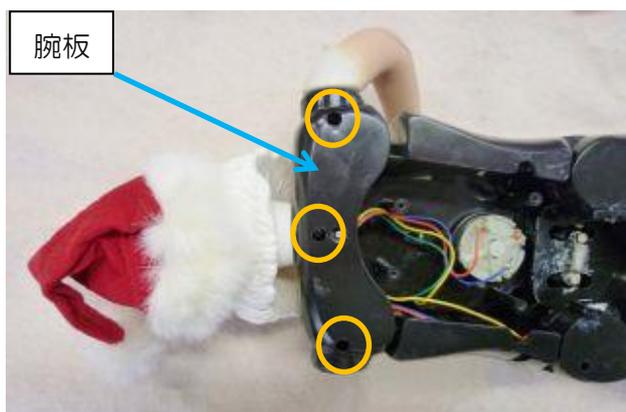
うつ伏せに置き、○印のネジ（タッピング3×8）の4本を外します。



（4）腕板の外し

○印のネジ（タッピング3×8）の3本を外します。

外すと、左腕の根元部が残っています。シャフト3本も外れます。



（5）左腕の修理



左腕が根元でちぎれていました。

材質がソフビ（ソフトビニール）です。

（a）接着の補助材の選定と加工

2つの合わせ部に腕回転の溝が要るので、ステンレス線で縫い合わせることができません。

先輩ドクターの余った木材を使う修理法を参考に木材を使います。

6mm厚の木板と厚み調節用の2mm厚のアイスクャンディー棒を、腕の開口部に入る大きさに切ります。

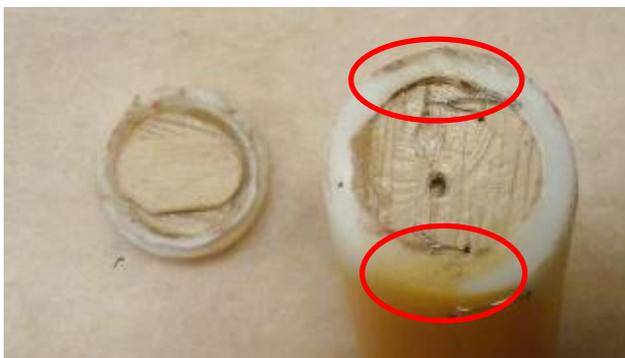


Jingle Bell Rock Santa の修理法（左腕の外れ）

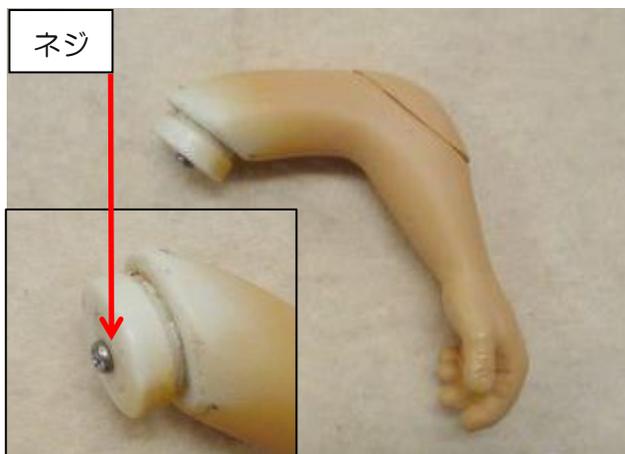
（b）左腕パーツの接着と縫合

根元の小さい方は、塩ビを接着できるセメダイン製の「スーパーX2」で接着し、腕の方はステンレス線で2カ所縫合しました。

そして根元の小さい方にφ3mmの貫通孔を開け、腕の方にはφ2.5mmの下孔を開けます。



（c）左腕パーツの固定



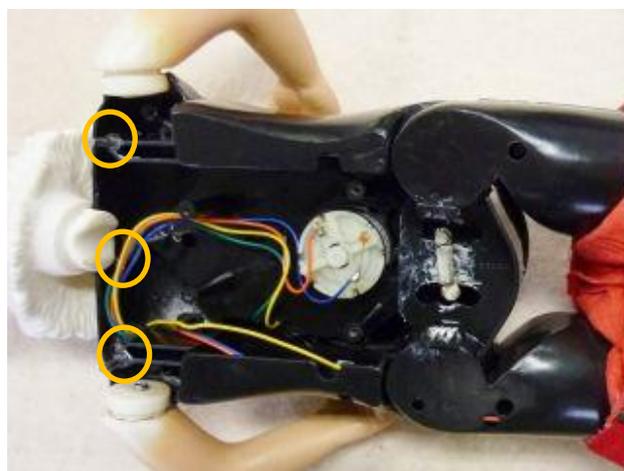
根元の小さい方に木工ボンドを塗布し、ネジ（タッピング3×10）1本で腕の方に留めます。

修理完了

（6）元に戻す

（a）頭部・両脚などの設置

背板と腕板を外した状態に、頭部と両脚を置き、○印の位置にシャフト3本（5.8mm1本、4.6mm2本）が設置されていることを確認します



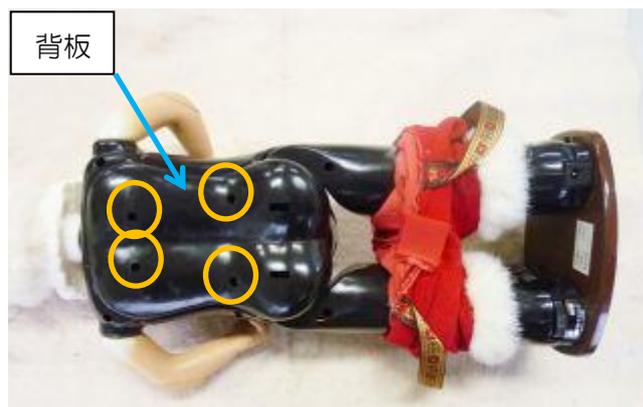
（b）腕板の留め

○印のネジ（タッピング3×8）3本で留めます。

Jingle Bell Rock Santa の修理法（左腕の外れ）

...(c) 背板の留め

○印のネジ（タッピング3×8）4本で留めます。



...(d) スポンと上着の着せ

両腕を上着の袖に通して着せ、ズボンを上げてサスペンダーを両肩に掛けます。

完了

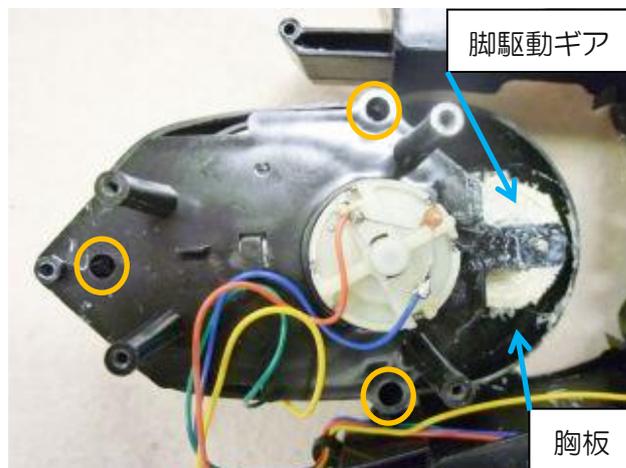
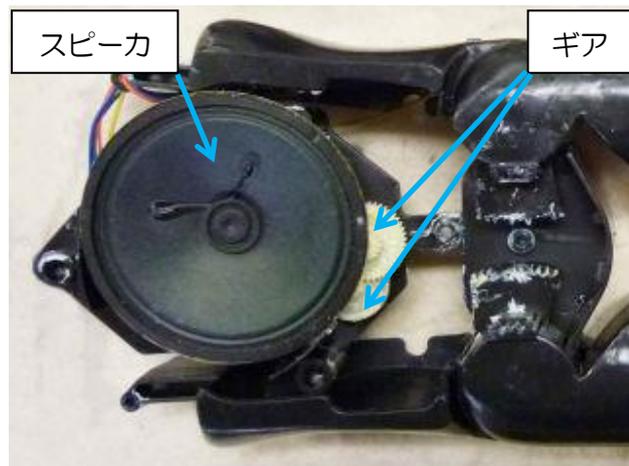
6. 備考

左腕の修理とは関係ありませんが、必要な時に参考にして下さい。

...(1) 脚駆動ギアなどの点検

...(a) 胸板の外し

○印のネジ（タッピング3×8）の3本を外します。



...(b) 他ギアの点検

仰向けにしてからスピーカをずらすと、モータのピニオンギアや複数のギアが現れます。これらを点検します。

...(2) プリント基板の点検

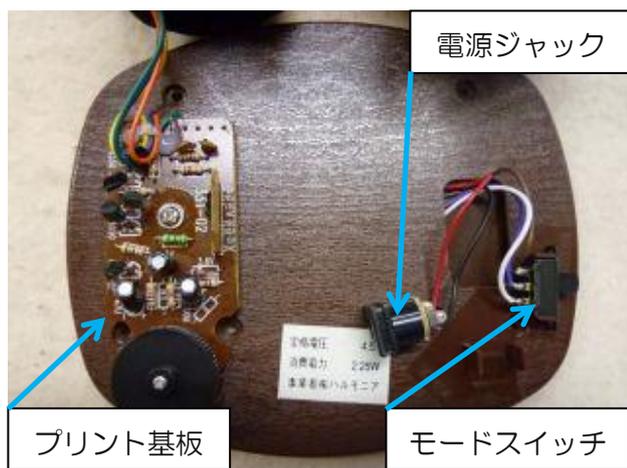
...(a) 底板の外し

足台の裏側の底板にある○印のネジ（タッピング3×8）の6本を外します。



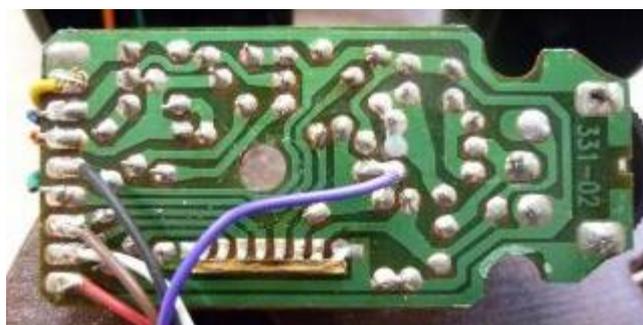
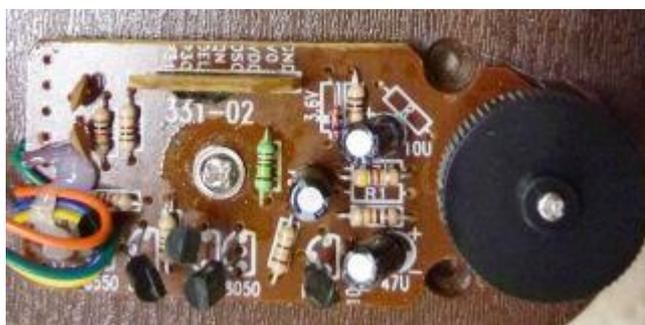
Jingle Bell Rock Santa の修理法（左腕の外れ）

(b) 足台の点検



底板にプリント基板やモードスイッチおよび電源プラグがあり、それらを点検します。

プリント基板は、



終わり